



此山集 六



1979
6

崑山集

六

目錄



結
水鷄
鐵線花
夕顏
石竹
芥子花
百合草

海堂
鴉餉
夏草
風仙花
常夏
明雀表
美人草

多行

競馬

橘

梔子

棠花

梅実

楊梅実

雌實

端午付高麗

五月雨付梅

橘

桐花

松梅花

杏子実

枇杷実

早苗

鹿山集卷才六

其部

百合草

目小みぬ鬼ゆりちんや孝の
 花の形ありさや鬼はひの
 さみぬま心はくらの博多ゆり
 鬼ゆりはさみぬいあやうらせ
 咲のらちるさうさたかゆりは
 花のはれあやうつさあゆり

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

一心

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

治宅

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

良和

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

重位

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

重友

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

勝位

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

西清

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

忠昌

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

良利

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

正成

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

正奥

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

定徳

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

貞利

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

長隆

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

同

鬼百合とせしむる白也シ花ハ生ナ林ノ

同

継母のふたや糸毛の車百合
ちりすおよせるかしくゆら花
姫百合のそはのが菊の好み
こほきあつたや木常敬車白
ひんきて終日ゆらん小姫百合

美人草

花のこのまきやなら美人草
草枕をうんとくまらわ美人草
つふふん日花ら折る美人草
恋草といふる三拍や美人草
袴らきく一物施の好も美人草
螢火とみくやあゆら美人草
花を虞氏病の泪の美人草
小野の咲く小町の秋の美人草
初てらん虎外野人も美人草
あまてふやえとんとちね美人草

六五

あま
うき

花の香に反魂香の美人草

熱 保友

花露の玉にうらや美人草

早 良勝

花に中してや美人草

漢 香成

美人草と花の露てい思ひ

熱 正茂

細とぬ花の賢女の美人草

熱 一治

数嘆ハ三子人の美人草

熱 貞祇

花みよわらぬ花の美人草

熱 任元

しきし花とむらさちやく

熱 近直

美人草をひくや花のこま

高 季英

露の玉よしおかけ花に美人草

高 酒好

美人草をよよとてこの花

熱 貞利

るそくあめあめらうらや美人草

熱 一尊

路おぬにこまやとるん美人草

熱 一宜

花子花

あつこ花をよぬのけりや花子の

熱 永

吹くそ花のけりや花子の風

熱 長昌

あふ花はうつろふあけけい
喉とつらへい切のまけけい

坊主

系

玄白

瞿麦

あそこの虎と射ら失つる花
たけしあ花とつらへいちりけ
あそこのあつこき花とつらへい
梅子とつらへい花のちりけ
あそこのあつこのあつこき花

かきこことあつこのあつこき花
梅子のあつこのあつこき花
あそこのあつこのあつこき花
梅子とつらへい花のちりけ
あそこのあつこのあつこき花
梅子とつらへい花のちりけ
あそこのあつこのあつこき花
梅子とつらへい花のちりけ
あそこのあつこのあつこき花

系

成方

系

良勝

系

貞好

系

正勝

系

友室

系

青島

筆のちくぬせとも観乃石

奔 筆会

みまねてやんもあはれるの所

中舟 安野

菊の用さみるわご母の志也せ

元伝

好名て撫く魚ともかふる所

長流

石の所や河原明彦表れすまの

地 月

常夏

とこるののむくくもたはる所の終

之類

四時のもちり屋敷もさくたはる

舟 長流

とこちるのや九夏らうくはらり

露 苗心

わらうらもさよとあさるは花島

長流

夕顔

夕かの花とあうのたむけお

たえくれぬ夕貝やれそき花

夕顔の所の垣のたはる

夕貝やあうふあ乃あう

夕貝もあうとひそしる日照亦

夕負の花や徳氏のまゝこれ

白仇とみし夕負れを自うぬ

夕負のこけあわじのおけい

夕類のまやれ折やあつ

夕負の能あつさうらう

夕負の花やま向てまうく

夕負のまゆり出るや約の里

夕負のまゆり出るや約の里

夕負のまゆり出るや約の里

夕類のまゆり出るや約の里

夕類のまゆり出るや約の里

風仙花

折候あつさうらう

花の具あつさうらう

鉄線花

あつさうらう

首巻

信元

髪

政重

垢

中島母

信

政信

信

周次

信

信英

信

信成

信

信

定重

吹切りと風いやくらう鉄線花

有葉のてまやくらう鉄線花

わら線乃ちらと出らわ鉄線花

りら建ころつあわ線ら鉄線花

ころら紫い大のこきらり鉄線花

さけふも百雲一らわ此鉄線花

咲ゆやといもうまの鉄線花

たすとすう出い藤ふよ鉄線花

ゆらうらわふお針の鉄線花

鉄線花とこえともゆら

さゆわ

ゆらさんふくともわ鉄線花

鉄線花楊ふらうらわら

夏草

ころらとら鉄花あけらめい

わらとらわ似らかんいの花

新川

玄樞

江戸

未得

新海

勝者

三好

おま

宇丹

忠孝

新日

友宣

海谷

貞利

凡

花もさくらひく遠慮せん
 ころふあはれ中めまゝあやあはれ
 女房は智恵や未摘らるのこき
 夏瘦とせぬいさゝこの子な
 なくさかたきまゝに志きり外
 頼むさうな存ひなるんまの
 祭物のあはれくらげのわらわ
 夏苗い志のふあはれあはれ

思ひ親もやうな長力番當の
 連くはれ馬もわがはれ
 深草の候もわらんすうり
 たまめやじんまりの花は
 刈藁の青道ふの夏節か
 志の祭と似し地もわらわ
 場らけしり夏野もあはれ
 らしめそまゝあはれのを

ねむくや花を單にゆらゆらひ
 多んや夏いたの流るる教
 唯は雨落のせつらと建世
 来世とて佛も濁りしやのむ
 田の北と出さんくはあつた
 ちる落やのどあつた銀雲
 枝をうら丁百もさけ金銀花
 賣も目のくくつさぬ金銀花

坂倉 政辰
伊波 政辰
任後之母 政辰
三河 一葉
道生寺 一舟
三宗 一舟
晴 一舟
 善治

将基さくは上りおみせを金銀花
 八重徳お夏え括へさやんも
 ちれおふ一夏やれさ夏
 十おみそらぬものや七重花
 舟より建納るもえんも蚊帳草
 後夜おのふい共ふや花の書
 教書やわらぬ書や昔れ茶碗
 夏よりまうけおのくちらちる茶碗

井上 正友
兼公 正友
池田 一舟
江 一角
江 林森
江 由河
江 康耳
江 未切

破きくもわのりゆり鮎の網 森 英茂

すくひ網やうきりふ鮎の海川 中 貞宣

鮎つらわすくちんふさくわ此計 中 お郎

けりあもせよる川の鮎のじ 中 舎次

わらん鮎と海をよもせ

帯りけきり

くふわいの笑どのせてもらる 多 長發

海松

あぢは海のねもふまかひみ 多 宗別

ふゆ毛のくさくさ 多 志川

なけ中てのりこさ 多 長調花

あけ

竹の子れや 多

きうつら 多

異さ 多

竹の子ふ 多

竹の子はうぬすめくま竹生湯
やせ敷ら竹の子ららじりら物
夏がーのゆらう竹の子は
竹の子は地と生ぬくや敷らら
良業のめり竹敷らる竹は
うーやせと中らさ竹の子は
むくみんあさう物やその竹
生湯性のうまこ竹の子は

よあいのむん仙家此竹の子は
あゆゆは竹乃子登て敷乃用
竹垣のよふゆらあゆま子
あゆゆは竹の子はよされか
竹自在天つもさけ今年生
人ら此移くる竹の子は成
新とくくられ竹乃葉は敷ら
あ竹や十七八く敷らう

竹生湯

親作の子とあつたやかぶる

しよとせむものつら子も

る作乃ゆけ梅や野のつま

まわったけのひめとを今年

よりのとあの人作なり子も

作田なり作へ佐母のさし子

るうつとまこいもいそとあの人

遊人のつくはすのこり今年生

す此子の中らとむらわつよき

作の子小物をあせそ筒ぬり

教乃内おきつる作の子も

教よして産む作乃子も

ひとありて子有そふと女

作乃子れみぬや教しゆきん

親作の子とねとちうと

言成

合成

酒永

保也

由所

久壽

作大

竹の子はよるいむわいし

平名 孝次

竹の子はるまをくまの

豊次 玄次

燦わりの浅名はけの

同 同

すくをのぬくちよ

同 同

男をさ女竹乃し三年

家 信安

竹の子とそこく

同 友我

うそくそく竹やま

同 同

竹の松とわらわ

同 同

教りあふ竹の老

定寧

竹の子は高そそ

心勝

そじらおま

良保

庭おれは

良保

すく物

良保

思おま

元晴

竹の子はす

良保

竹乃を

道良

様多ありてかむく折の子

あり折のありきとくや

折の子やいと折る此馬の角

焼折み出らるる子たのし

折のあききらかて衣やれ

よぬふかいたん折の舞子

二まこめてらるい折乃ち

ありき折もうじ川折れ

ありき折もうじ川折れ

人ら只折の子とく

は京野とらく

ありき折もうじ川折れ

ありき折もうじ川折れ

ありき折もうじ川折れ

ありき折もうじ川折れ

六十一

舞

清之

中

永在

非若

正忠

善本

忠次

持

善富

推

有信

坂

保友

政

政原

在

正因

持保

在

貞利

九

日

二

二

竹の子の籾氏将来の病れ玉
竹乃子や実ちくらののかしらり
ぬゑるるゑも竹乃子も亦
竹の子母ちうせさすかまは林
子りわふしよふふ實さぬ竹の
竹の子はきえはるくやなまらも

端午 付 葛蒲粽

あさきをゆりむ籾のくしをわあわあ
斬めさす葛蒲刀にまらりしり
葛蒲ももあまきことるすはらん
葛蒲刀短くさや斬めさすと
ふとのわりらるるわんこ籾の
うつまけのふよのたの籾あ
ぬの書わからるわわのれ長道し
斬乃書も葛蒲刀やさうも
六人の少くはあ人の葛蒲水

波の紋まづくちるや花菖
わけの露の玉らる菖蒲刀水

右を清むる日のちる蒲もえ流

まるとこ世此かりと秋ふ節修

厚も目もいづい流の首修水

花修とえさるや穉も菖蒲草

菖蒲少くもあまの孫の地ゆ

少くもあまの孫の地ゆ

菖蒲少くもあまの孫の地ゆ

菖蒲少くもあまの孫の地ゆ

菖蒲少くもあまの孫の地ゆ

菖蒲少くもあまの孫の地ゆ

菖蒲少くもあまの孫の地ゆ

菖蒲少くもあまの孫の地ゆ

菖蒲少くもあまの孫の地ゆ

菖蒲少くもあまの孫の地ゆ

菖蒲少くもあまの孫の地ゆ

季子

林深ゆ

あ節

良勝

正伯

初鳥

昌休

友室

ノ刃

正伯

貞利

悦喜

如貞

定房

厩原や志くふ源のあり程 月

葛原少き程六軒は流す備 友宣

のらまきと程ふら此葛原備 政次

繁昌の軒八葛原も葛原備 長頼

軒下お句ふやうくさる葛原備 〃

けさ句ふ軒は葛原や一軒書備 〃

水あころ葛原力わけさのゑ備 〃

惟もくくわわぬへ内裏程備 〃

競る

くらまけの時とわけら競る備

きふわけいる志も兼わの備

くらまじふらまけ競る備

約してさるぬいおあ備

まふまひさくら毛あて足えら備

しんまふ何軒も程の足えら備 正朝

龍の釣のしけいふらほは

不為

標まうくくびりるまめりり

別を

の林の口目めりりけいり

欠宜

まももみらくませとらま

良知

らひく飛けいりや野のつ

方宜

月やゆふ子らんあつ競馬

幾成

すらふら魚のけいりんのじ

良次

まをゆらまはしりらま

正作

つららてあもほしりあ

九

あまのけいりるま

二

あまひらくちりるま

二

五月雨 付梅ぬ

望ねらうつきのこめこ

五月雨や山をたのこ

六月雨の高溜りれ

五月雨や海所とるす小藤

五月のいそぎの賑は日乃目
了考 夕霧
六月雨のいそぎのひてり
了考 夕霧
目やこれ地勢も雨宿り志
了考 夕霧

けりも業て星出けまは

星出りはさうきやと目や地勢
業 池田
入とさうりふめりわとさ
業 池田
六月雨のいそぎへあり

しんといふ此跡のいし
紙のりちういそぎのいそぎ

如野ういそぎ

さし合はかさほんさきま
了考 夕霧
蛇もれやいそぎの遊はらん
了考 夕霧
ありあめさうりそぎれや
了考 夕霧
定ふもあしはるの暮れ
了考 夕霧
さし合はかさほんさきま
了考 夕霧
はとたまのいそぎ

五月のふゆの梅の雨
五月のふゆの梅の雨

室
正
正
正

お世に梅の雨

中
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

天の梅の雨

正
正

六上九

塵をこすりゆくはんてい梅の面

に上

壬午

五月の大海もわ井の煙

長久

法陽もくわあふさんてい

月

早し女のさそふもあはせ

と

五月の氷わくや東の地

と

六月の雨はゆるくあはせ

と

梅の匂やあふさけは

と

梅乃の匂やあふさけは

と

梅の雨もさびしくす

と

毒花の匂やあはせ

と

かこちりてささくや

と

橘

さらさらけはあはせ

梅の本陰てのじや小

のじお茶いらくさら

存好とくめくら花のまけ

呼ぶと踏まらつるもの物

二僕ハ花くらとぬりま

橘の家風いじりてま

くら花のまくらと

橘やしー此人の神香

じしく橘や俵物

小橋とれ自は海舟のり

くらとらつなと

中めくら流さき花の匂

橘やくらつりせんさ

花林子咲やおまは

くらとらつるもの匂

くらとれを世よあけ

のあま布とたらつる

高

新

了

新

豊

友三

廣

定房

聖

定利

意

那山

正武

伊名

正美

松山

玄和

長親

こ

門と世とをわきしは花城
夏の目もじもわきも咲か
ゆきもつゆもつらもあふ
そら花のいろもあまの

標

咲ふ普天のよはあふら

梔子

そのまじり地もはるは花城
くまもあまのいろは花城
野はらももをきん梔子の花
はるの花もあふら

桐花

かきも色清なるは桐の
あまの桐とやうら
家の目貫もく桐花
けつとく

大正

景
好永

右
利政

右
貞剛

右
貞利

純

一考

大正

目貫も七花の候なり梧桐
舟の舟も水にまけたり梧桐
写るは此花を九輪の候

右
圓判

粟花

十里兼三そみより此花の
風はもななくさげくり此花

那
重義
友家

松栢花

八重松よ一のりん栢やりの
花

ト心
清任

美奈もこまきとみより栢栢花
ちや火燭書戸のおは花栢
本よりくてもさやまは栢栢
とまきとと栢花とけり栢栢

系
重義
重吉

梅実

梅漬ハ鶯飲のさうか外

枝をうらむ梅漬やつかの肉

南枝うらむるふびやくこじ糸

一 青梅の匂ひの玉此すうり糸

すうり糸梅や水野の夜柿糸

うらむ本此実わすのこも梅漬

一夏のすめ志るれや梅漬脚

漬りささるうらむや新瑞の梅漬

たはと実わたりとひくくの梅漬

漬梅のぬきんすうり実やこも

漬梅のたわのきけり実ら

杏子実

實くく味いまんち此めん

楊梅実

山りれすうりは枝のふらぬ

枇杷實

おとくなるもるうらむ梅漬

足

未得

梅野

正陳

高

室和

岸

昌春

如貞

尾林

金藏

俊重

梅野

正陳

おみきいーしきもあすとい
るうららいつつたやうに
桃の美れだんけんりあま母

利政

早苗

さしめし田并わらふ種うか
胸をれをうら田方れすうに
を外てる人うとるう田余

万民の穂く飢ぬいつ早苗外

織の女もう人かむらつ早苗外

縮るうそききききみら早苗外

然も世とよころへ穂りたり外

えうとようもる人の穂田外

人るの命れとよとう人田外

あつらとよととと穂り田外

不可思儀められえうとと外

海色

定海

右右

貞利

右念

政辰

右右

久野

江戸目録

好永

新美

元辰

あ節

うー田中はましくあやみ苗
孫しおみうくつくつ孫や餅の
やとねくううう軍苗屋人田
わんう下あうひくうううう

麻

あのかみまくやすくうう麻

紙付鳥紙荏子大角豆

良
玄純

2 2 2 凡

紙のふくまうくつうわん
あやみくつわんあううわん
わんくつわんあううわん
あやみくつわんあううわん
あやみくつわんあううわん
あやみくつわんあううわん
あやみくつわんあううわん
あやみくつわんあううわん
あやみくつわんあううわん
あやみくつわんあううわん

あけのあけとあけのあけ
右名 貞子

誕生のきこえ

ちんちんちんちんちんちんちん
同

竹垣の松葉お似たり
貞子

社あけりといふ
お似

よくたけりけい

ちきりまね道に
系 叔父

しんきまわし
政次

あけのく毛抱の
了孝 久義

あけのく毛抱の
景村 武次

あけのく毛抱の
三郎 元晴

あけのく毛抱の
林 貞室

あけのく毛抱の
久友

あけのく毛抱の
井上 貞所

あけのく毛抱の
貞知

本庄八

まゑにひかりあつたに

堇

くらゐのこころの歌法師

はらうかよまふ地つらこふ

あかまふいらゐのつらこふ

藤子

ふさのひや夏まで書きたり

矢かぬり血の流るゝやおれ

持人かゝわゝかゝあゝあゝ

まゝのつらひとくはあ

やまゝのつらひとくはあ

目かゝるつらひとくはあ

一たかあつたつらひとくはあ

しゝつらひとくはあ

あつたつらひとくはあ

あつたつらひとくはあ

藤子

多々

藤子

保友

藤子

定房

林

久治

藤子

忠益

藤子

林友

長丸

惟子

惟子も夏六月のころの
 所と名あつた惟子やう
 るひとよきぬの心と
 綿の地も忘れぬわさ
 糸にちぢりたるも夏衣
 肌ぬき種のおろむ
 夏衣のころの
 此山集夏下目録

夏衣 付月

夏衣

蝉

夏鷓鴣

水室

祇園舎

白雨

暑氣

扇 付固

納涼

泉 付清乃

蓮

御 振付衣

雑夏

鹿山集

夏部

夏夜付月

短衣のわくまをとりぬまふくす
 へる衣のひそから新くわくま
 大空の近遠のわくまの月
 坪のうらた月や雲のたよりさ
 新き衣や襦の尾紐をうらた月
 夏は月いさよな山あてりて

夕べの月や此の
涼の月や夏の月
夏の花はあつち
秋の月一才法師
夏の海乃こころ
短衣の寐たる人
よの甲も花をさし
花の

高古
弘長

深中一海女

とるやわらふも
おらまる川の朝日
夏の花の月此
花の夜乃月の
夏の嶺乃月わら
幸此矣とさあそ
夏の月此舟い

有馬 合室
尾形 助吉
高古 好道
高古 久
高古 感徳
高古 永
高古 味
高古 言

火中入や思癪めんらん此夏の
 前せりりもとやくらん夏の虫
 かけ麻とやくいひきうや夏れ虫
 夏の虫れ火性三昧や陰陽所
 多と揃くおしむたりよたう蠅
 蠅の多と活らへかきうのあさ家
 夏ひさの蠅より蜂うあうはつと
 一夏握とちふりわちをあふの
 冬虫とわえし夏野母久頼引

蝉

夏の部れおわえよ中ぬ蝉れあ
 のう夜せんくくせまの山河外
 地勢とあさうらう虫はのせん
 山寺ふさうふぬ狸の蜂の勢
 常や蜂の脚もせまの所
 木々の枝へせまのねは家樹外

音 次良
 音 志家
 音 加友
 音 芳呂
 音 貞房
 音 正次
 音 政伝
 音 友室
 音 英政

伊家そのけり家さこせまの理

風うら梢の蜂もささる初

夜もく歌ふ心いさせまは作

蜂のまら歌ふはとまわけ

木々に啼ハ菊葉集の蜂の

室蜂のささるく落也侍此竹

うりまはれま木にほふ道理

らせまのあまふちりてわ

大旱せまの小河もまわけ

笠垂山まはれ衣もぬ脱

まわけららけりもわせまの奇縁

猛わらけりけりわけよ蜂も

奇もけりまもみ蜂もけり衣

のけりまらけりけり蜂の勢

蜂の奇也木後の蜂乃家集

山歌のささるやまら蜂の吟

梅

梅

未得

正式

政信

月

賞

家

順理

感痛

定着

成方

晴天のぬの枯木は蜂乃勢

右春

貞利

天志の流比をぬ蜂の時ぬ

豊

宮之

啼蜂のふろのやれ夏之部

左三

下置花めく

名山

そら波くたはそ啼や蜂の程

丁馬

明流

蜂の程ぬ出もやせぬ森の勢

夕露

一月蜂の報息程の程世は嶽

同

程ぬもろう縁八ん蜂のう家

三

蜂衣移もせぬ質の垂り

森

好相

蜂やし女ねらりもかろ三保の

守蔭

江列舟本と

帆りりの蜂と来くるけ船本

紫系

逢坂と

冬夜の静乃吹のせりの勢

冬流

長流の吹りもやぬ蜂乃勢

〃

蜂と舟も下ろるや耳は元は

〃

孫やまそや月とひらうとせまの
かまきりも鳥か用ん野の都々
そのつゝあのみまよとひらうや野は整
虫乃中てわけせらるや野の都々
山の林乃ふられ病のせまの都々
つゝえわらむらう野やめらる
野と都々まれの鳥窠野脚外
野の命はるひらうまよ野の玉

夏金庫

都々れわわわらひらうひを都々り
まよとらふまよとらひらうひを都々り
まよの神かまよひらうひを都々り
とまよ目も都々や青葉都々り金庫
まよは都々れまよひらうひを都々り
都々散まよ都々まらひらうひを都々り

水宝

車柄 良次
甲信保 忠政
夜 金藏
森 勝之
山忠

六月朔日空々々

水鏡より人あふくさあふみ
水鏡より人あふくさあふみ
水鏡より人あふくさあふみ
水鏡より人あふくさあふみ

保母
几重

紙園書

弓持ハ八まん山の騒々園うか
紙園をよや二幅一射系津鴻

紙園をよや二幅一射系津鴻
紙園をよや二幅一射系津鴻
紙園をよや二幅一射系津鴻
紙園をよや二幅一射系津鴻

紙園をよや二幅一射系津鴻
紙園をよや二幅一射系津鴻

紙園をよや二幅一射系津鴻
紙園をよや二幅一射系津鴻

紙園をよや二幅一射系津鴻
紙園をよや二幅一射系津鴻

紙園をよや二幅一射系津鴻
紙園をよや二幅一射系津鴻

紙園をよや二幅一射系津鴻
紙園をよや二幅一射系津鴻

紙園をよや二幅一射系津鴻
紙園をよや二幅一射系津鴻

六八

季吟

同

同

祇園寺の観音山も清水寺 中 貞宣
 祇園寺は森山か、此寺の寺
 引まつと長刀辨や水車 日 長院
 日さそくくも所も世のん年 日
 月辨と世も涼も扇の庭 こ
 敷きも菊も辨乃の心 こ
 合すも鶴辨の子の轂 こ
 辨そも世と祇園精舎の子 こ

白雨

夕さら此来も世の赤さ虹の矢
 夕たちのもわらうもこの朝外
 鳴林の夕立少くも右轂か
 夕花も目のもわらうと梅光
 夕立のも世中らりも目と物
 伊ららりの夕花とおひも外
 夕さら此流も世のる入日新

のさか河を

夕くらみせをわらわ河乃水

伊勢

正頼

ゆふきにゆりそ暑さわ新の外

信

松葉

畔野の夕をゆりそ出つこ山

高

政信

夕くら地や鬼つらつら門

森

高直

あそゆらゆらゆらわ新あそ

新

高直

夕くら河のゆらゆらわあそこ

勝之

ゆふくらゆらゆら暑さこあそ

あそ

ゆふくらゆらゆら暑さこあそ

政信

夕くらとゆらゆらせよ月乃雷

雷

利久

わらわゆらゆら此愛記物

葉

浦乃

夕くらゆらゆらゆら此法ん

葉林

田舎も目たり此水田の穂高園

葉

高直

夕のせやとゆらゆらゆらゆら

流及

夕乃勝あそく夕くらゆらゆら

長頭丹

夕くらゆらゆらゆらゆら

同

夕立の涼をよもぎや磁石の
回りのこきりともよもぎ雨知の

暑氣

暑さ目め暑さくらわ河を
暑さ目のくらりくらのわい
わいよれ暑さくく夕烟

暑さあまよりのわい
暑さ目のくらりくらのわい

暑さあまよりのわい

暑さあまよりのわい

暑さあまよりのわい

暑さあまよりのわい

暑さあまよりのわい

暑さあまよりのわい

暑さあまよりのわい

暑さあまよりのわい

暑
友之

高
室名

中
弘之

葉
一正

正
正城

舞
月

賞
賞

長
長

二
二

思ふに水の涯夏の目よあひ地獄

ひえのふへのやうさりと

人修りまされ

火燭やとれゆるも累さふ初坂

はな野あつし影空星掛の誓

解付園

山嵐と腰おさうらあふさふ

中風やわすし女の解あふ

霧の結をからむりあふの薄形

あつさよをさくあふ地乃解

太水お網さくあふさあ

か風とらと霧さうの唐園

涼さくは儂子あまのあふさ

お時おさうさくあふさ拍子

松あふささくあふ涼さ解

流人のあふさく解や風乃解

風と波と溜ヒツカと并く庭亦
 暑を日とあふくや汗とひき
 風をまをふ外なるぬらひ
 斜をくしてらふ庭のあふ
 地とわそ庭や風乃かくれ雲
 ゆひの軸マツとく庭や風車
 日月とまを揺らむ庭
 ちとゆく夏も眠ぬの庭
 魚あくと風とひりせ庭
 風らも涼とあふ庭
 風の秋乃からくひ庭
 庭と庭らこの庭の心玉ヒメ
 夏の庭風とく庭とあふ
 暑を日とあふくや汗とひき
 風をまをふ外なるぬらひ
 斜をくしてらふ庭のあふ
 地とわそ庭や風乃かくれ雲
 ゆひの軸マツとく庭や風車
 日月とまを揺らむ庭
 ちとゆく夏も眠ぬの庭
 魚あくと風とひりせ庭
 風らも涼とあふ庭
 風の秋乃からくひ庭
 庭と庭らこの庭の心玉ヒメ
 夏の庭風とく庭とあふ

新下、此月、その海、陸の、
何、その、あふ、ま、け、の、折、句、亦、
林、風、か、ま、ま、ら、あ、ま、ま、の、地、
あ、ま、ま、ら、風、の、ま、ま、ま、あ、ま、
孔、候、ま、ま、ら、あ、ま、ま、の、
あ、ま、ま、ら、風、の、あ、ま、ま、の、
風、の、あ、ま、ま、ら、あ、ま、ま、の、
あ、ま、ま、ら、の、力、也、海、新、

流、の、あ、ま、ま、ら、あ、ま、ま、の、
あ、ま、ま、ら、の、あ、ま、ま、の、
あ、ま、ま、ら、の、あ、ま、ま、の、
あ、ま、ま、ら、の、あ、ま、ま、の、
あ、ま、ま、ら、の、あ、ま、ま、の、
あ、ま、ま、ら、の、あ、ま、ま、の、
あ、ま、ま、ら、の、あ、ま、ま、の、
あ、ま、ま、ら、の、あ、ま、ま、の、

一井
重紀
重紀
重紀
重紀

風と山一汗と一のあふふ
 人地を風の袂代乃以ふふ
 風物ハ心海一あふふ解成
 窮氣ノうらうら有猶其解成
 蝶ハうんあふく猶其あふふ
 一折此懐紙のあふふと表
 あふふと心之目其あふ風の切
 繪ノ明けやも程も皆あふふ
 魚ととて汗ととせぬ解成
 骨はも鬼よあふ此解の程
 骨らととてあふふわらも解の
 月日川と山と扇とあふ山
 三ヶ極のあふあふの地なり
 せり橋やあふく解此地なり
 天とあふ地ととれむ扇分
 風のつふ解乃骨也下此意

台 信 信 信 信 信 信 信 信 信 信
 室倉 心威 政任 西谷 心武 延清 宣源 下流
 勝能 友正 信元 可原 政直 之永 気重

風のそよゆひのあけの骨の
風もそよゆひのあけの骨の
秋のそよゆひのあけの骨の
暑き日ひのあけの骨の
すかきわきんちのあけの骨の
涼風のそよゆひのあけの骨の
暑相撲のそよゆひのあけの骨の
暑き日ひのあけの骨の

一頁
梅
宗
林
裕
自
是

庭のそよゆひのあけの骨の
比のそよゆひのあけの骨の
松のそよゆひのあけの骨の
涼風のそよゆひのあけの骨の
あけのそよゆひのあけの骨の
涼風のそよゆひのあけの骨の
園をてのそよゆひのあけの骨の
あけのそよゆひのあけの骨の

武
久
宗
継
廣
角
可

海の吹をわきんせらぬらら
 風の吹をわきんせらぬらら
 其の吹をわきんせらぬらら
 吹風とまじりぬらら
 夏は日のあかりもせらら
 雲乃目せぬらら風の吹
 風の吹の振ひくつあふ
 河の吹のあふくつあふ
 金銀もわきんせらぬらら

保友 吾威 貞宣 貞利 貞宣 貞宣 貞宣 貞宣 貞宣 貞宣
 長瀬丸

日能上人とある音の寫

のま終くとある

海もあふく風とつるをぬら
 海もあふく風とつるをぬら
 海もあふく風とつるをぬら
 海もあふく風とつるをぬら
 海もあふく風とつるをぬら

ういそぬ扇の骨や歎せお
骨くもほよとてあふさね様
るふのまてあつて感念後の解
下地とすくあつて風の
夏の敷の月もあやしくそら
月乃解流るも夏の神まけり

納涼

す風の音や空あめ舞の音
ほろあせんにさびらむおるが

舟の帆や色もすくさ
タカムシロ
テン

風乃あめひきまありらも夕涼

す風あめひきまありらも夕涼

夏の涼くいとあじらむ風紋

六月や涼き風の袂五月

くほの宿も

涼きや一樹のまん気嵐

こ
こ
こ
こ
こ

岸

林舞

中

志堂

る西木柳氏

正長

自記

友三

じまふもやスダク瀧水の平ころそら

右貞利

まほしくいしほむやひまののわ

高一重

破るらんいしほまう了坪の内

信政佐

まきほかの汗ハむらむしぬ

奥左之

思つ移ゆ金生水の泉外

長親此

まんすりと造人ハるりや

、

らと夏むすまハ目ハつりま

、

連

水まといふらわ池の連花

鼻のわあそ程りゆふま

花の名もよく海付れら

あ逢くとちゆせん連花の

研朱のひくちらすの

生花ハ人めさう熱ら

榮躍り傘鉾とらら

切らまらと又花ハけの

連うか

六五三

さくらんぼくじのしりから蓮花

かろふ目の佛を産する蓮花

水の中を咲く妙法蓮華

あはせらるるも及びぬ此志の

深谷の軒乃軍をらす

蓮花は弘法玄の舟此帆蓮花

深谷と見分けぬ九品の蓮花

九川の志を玉るれり

白蓮のひくくや

参堂さん那や

草木の成仏

佛壇のまきん

堂のくらし

池乃を

父の遊若子

ぬを

季子

梅雲

成次

九品

貝母

政信

心知

お三

お三

お三

後座

落

活

水の系くまきあ人の花の蓮花 中 永春
 水弱嫩鬼経うきひけ蓮花 中 林森
 花の敷と四百始わりの志 留 政位
 志ちのち寸冠せんぬ糸や若光 志 正忠
 病もまこいぬわまきまの跡蓮 本 貞利
 菊はましま満そそけし蓮 留 吉治
 夕くら此あころふのちら付 意 慈心子
 うさけく方の銀のちら付 意 信元

花とまきさかじらいらつる蓮花 本 政位
 繁とちんひくく蓮花 本 吉治
 花小任性ハ蓮の伴そく 本 昌香
 いと何とさるか蓮の花はらん 本 重名
 花小わろ氷あわ流るり蓮花 本 如貞
 花ととらんころり蓮花 本 鏡法
 車程もほハ繁の蓮花 本 長頼花
 いまかろう蓮花 本 のろわ尼崎 月

蓮の葉もはらふ志はしし濁酒

か傳やまをあふうらぬ少ん

蓮乃花もかんるふ暑さ

花の中はつらん入子此もら

所授付夏神樂

一る川やまふ皆月の志あら

四手流やんふぬぬみま

所さや園子とらひみ

見こころぬま

くまやまをせ給ふ園子此も

住吉やまを給ふのハ松乃勝

皆人の福ひあともわたり

戀心もあまきこれ月の夕人

美都のかきそりるせ御新川

城の海にせ給ふ夏神樂

波はた鼓夏かろくも給

六

こ

こ

こ

こ

こ

所

在

乃勝

好乃

皆給

こ

こ

こ

こ

夏々々波のそりえや舞つて

雜夏

さわうえきけき松お天の勢

風うらまの衣や下子深

死らりーたとんのお

とく舞つて

大死はさきー一夏はゆり

青う此とさ海とちる麦

夏の水きしまりうら井白

揺授の涼うぬらじわ一秋酒

末の露もとの濕氣は早松

夏来くはくひう雪お此山

とまもつて

去るごとく夏々々地さう

あま此はうらうも花よ一盛

花やふるらじつう三年二満

左

新

日

右

後

次

一夏花ははじりぬはし

りりり

夏はららの末摘花はあはれ

一夏花離れぬらひそめ湯殿

夏河の水中舟中舟のまゝ

優曇花と乞そつて

夏夜は力のあはれ

りて花のほかぬあはれ

とくしらのあはれ

雲のあはれ

風乃外は夏は屏風

雲霞はららるる

松とらしてはらるる

うららるる

あめちりのひせり

の付て中せぬ

森

長

連

正

正

正

正

正

正

正

同

正

正

正

正

正

正

正

夏はむら緑汁の葉ふき

葉田 白

久あを夏の葉を秋と一葉

葉 林葉

竹の筒あつまはたあわすけ

葉 正葉

ふ流もわすけあより一葉酒

葉 葉丸

くら物の物わ十八ち用り

葉 右折

湯の山や夏に地糞色す

豆 感膚

夏は人のもをあつらふり

炭 元佐

水は海舟河ちるるりりあの下

葉 白

時らあふりりりりりりりり

葉 貞直

夏はまのらりりりりりりり

葉 康身

夏はうのりりりりりりりり

葉 茂次

夏はあのかんこむりりりり

葉 白

夏はあのかんこむりりりり

葉 一治

夏はあのかんこむりりりり

葉 多賀

夏はあのかんこむりりりり

葉 青島

夏はあのかんこむりりりり

葉 方成

七五九

夏まじいころの雪のふり

花のころの雪のふり

鯉と魚のふり

川の水のふり

夏と秋のふり

と

安之

長頼

と

と

と

